



# 刀 剣 界

## 日刀保と当組合とが意見交換

公益財団法人日本美術刀剣保存協会(小野裕会長、以下「日刀保」)と、当組合との会談が去る六月二十六日に持たれました。

日刀保から小野会長・柴原勤専務理事・志塚徳行常務理事が出席され、組合からは深海理事長・飯田前理事長・清水専務理事・伊波常務理事と筆者が出席しました。

小野会長より深海理事長に対し「五月に行われた組合の第二十八回通常総会において理事長に選任され、三期目を迎えたことへのお祝いの言葉をいただきました。日刀保においても、六月二日任期満了による役員改選が行われ、小野会長があらためて会長に就任されましたので、深海理事長より祝辞を述べさせていただきます。

小野会長は、運営責任者の立場で、深海理事長は組合の牽引者として、平成二十三年に時を同じくして代表に選出されていることから、業界の発展を誰よりも強く切望しており、相互に共通するものがあるようです。

また、会長就任後、直ちに新公益財団法人の認可に向けて動き出し、認可後は多くの案件を、現執行部の強い協力の下に次々と実行してきました。

その後、墨田区の旧安田庭園・両国公会堂跡地に刀剣博物館を移設するという大事業に取りかかり、現在は基本協定を締結し終え、平成二十八年三月着工、二十九年春完成予定で進んでいます。

## 警察庁と産経新聞社を訪問

去る六月二十六日、梅雨空の日、深海理事長・清水専務理事と私の三名で、警察庁と産経新聞社を訪問しました。

警察庁では生活安全企画課防犯抑止対策室の武田英雄課長補佐と井浩幸係長にお目にかかり、執行部役員新任の挨拶を兼ねて組合の近況報告ならびに提案事項をお伝えし、会談を持ちました。

深海理事長から、昨今の登録証

「刀剣女子」などの新語まで生まれるブームが起り、刀剣関連の書籍も盛んに出版されていますが、刀剣業界がこのブームを牽引してきたわけではありませんから、今のところ、業界にさほどの好影響はありません。しかし、これから業界を支えていく若い人材に、業界主導で新たな発展の道を残していけないものかとは誰もが考えるところです。

例えば、自分好みの刀剣をオーダーして現代刀匠に製作してもらい、それを友達同士で鑑賞し合うような刀剣新人類が現れてもらいたいものです。そこで、新刀剣博物館に常設の鍛錬場を設け、定期的に鍛錬を公開すれば、日本刀の存在をさらに確かなものにしていくのではないかとという話題になりました。

柴原専務より、「墨田区の条例で、庭園内には火気類の使用が一切禁じられており、現在も希望は抱いているが、実現は難しい」と説明がありました。一階に開設予定のカフェハウスでも、すべて電気による調理器具を使用するようです。しかし、いずれは博物館において公開鍛錬が可能となるようにしたいとのことでした。

日刀保の重要な業務である刀剣・刀装具類の審査は、いつの時代も水準を維持しながら厳格な審査が求められています。今後、学芸員の定年退職などに伴って鑑定力の低下があつてはならないとする話となりました。組合や関係機関の意見を取り入れて、そのような案件にも機敏に対処していきたいとのことでした。

う、日刀保の現執行部の交渉力に期待します。

社会と刀剣との距離が必ずしも近いとは言えない現状で、組合は常々刀剣商の社会的地位向上を目指して課題に取り組んでいます。

「押し買い」などの強引な買い入れが横行している現在、売り手が安心して売却先を選べる基準が強く求められています。深海理事長の発案である純正な鑑定システムがまさにそれであり、刀剣の鑑定と美術的価値を的確に判断できる組合員を対象とする認定制度を提案しました。

ただし、これを組合のみの尺度で認めるだけでは、認定基準への信頼性が不十分のため、日刀保の意見を伺い、合意が得られれば、両団体の共催する認定制度としてはいかがかと申し上げました。

現在の日刀保には、新刀剣博物館の移設を前にして、「和」の精神を尊び、かつ実行してゆく姿勢に並々ならぬものがあります。数次にわたる組合との会談が「有言実行」をも物語っています。

日刀保と組合とがそれぞれに持ち得る情報と意見の交換を定期的に行い、今後の業界の発展に生かしていくことを相互に確認し合いました。この度の会談も有意義に終えました。(嶋田伸夫)

## よう伝え、対策として、警察庁・当組合・関係機関などが協力し、資格審査を経て公的評価鑑定資格を善良な業者に発行する制度づくりを提案しました。

その後、霞ヶ関を後にして大手町へ向かいました。

産経新聞社では事業本部を訪ね、鈴木事業本部長・中川室長・松本事業推進員と会談を持ちました。今年の「大刀剣市」の後援依頼、「一明美ちゃん基金」への協力

の問題で組合員が業務に大変な支障を来している旨を申し上げましたところ、井係長は、ほんの一部の不心得者のために、善意の一般市民が迷惑を被っていることは十分認識しているとのことでした。

## 全日本刀匠会が「大刀剣市」初日に創立四十周年記念イベントを開催

お守り刀をキーワードに、刀と外装の総合的な美しさを追求する「お守り刀展覧会」、「エヴァンゲリオンと日本刀展」をはじめ、「二次元vs日本刀」「戦国無双の刀剣展」などアニメやゲームの世界とのコラボ展。私たち全日本刀匠会および一般社団法人全日本刀匠会事業部では、日本刀のファン、現代刀のファンを開拓するための試みを長い期間をかけて行ってきた。

最近の刀剣ブームの下地には、私たちの地道な努力があると自負している。

本年、全日本刀匠会は創立四十周年を迎える。

この節目を迎える年に、何か記念になることをやりたい……。そんな声が、若手の刀匠会員の中で



第一部「触れて感じる日本刀の美」(十六〜十八時)では、全日本刀匠会所属の刀鍛冶が鍛えた力作を実際に手に取り、お客さまに鑑賞していただく。もちろん初めて刀を鑑賞する方たちにもわかりやすく、鑑賞の作法、見所の解説を刀鍛冶自身が丁寧に行う。さらに、刀鍛冶の仕事

数年前から出ていた。しかし、来賓の方たちにご挨拶をしていただき、食事をするとという内向きの周年行事では、もはや未来に向けて刀匠の世界をアピールすることはできないだろう。全日本刀匠会は独立した自由な刀鍛冶の団体として、もっと外の世界に、扉を開きたい。

十一月二十日(金)東京・白金台にある日本庭園の美しい、格調高い結婚式場として知られる八芳園において開催する全日本刀匠会創立四十周年記念「刀-KATANA-」の伝統と未来への挑戦」は、二部構成から成る。

深海理事長からは、この記念行事への来場者に対して、大刀剣市の入場券百枚を提供するとのありがたいお申し出をいただいた。十一月は東京で、深まる秋とともに刀匠の世界と観光をじっくり楽しむ週末にはいかがだろうか。ご来場をお待ちしています。(全日本刀匠会四十周年記念実行委員会会長・川崎晶平)

## 組合こよみ

(平成27年7~8月)

- 7月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第24号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・木村隆志氏・土肥富康氏・土子民夫氏
- 5日 『日刊スポーツ』に記事掲載
- 9日 銀座長州屋にて『刀剣界』第24号編集委員会を開催(念校)。出席者、深海理事長・服部常務理事・生野理事・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加53名、出来高11,888,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて「大刀剣市」の打ち合わせ。その後『刀剣界』第25号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・松本理事・持田理事・大平監事・飯田慶雄氏・大西芳生氏・大平将広氏・木村氏・土肥氏・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部にて大刀剣市カタログ掲載作品の第1回集荷
- 21日 組合事務所にて第1回撮影。担当者、清水専務理事・嶋田理事
- 24日 名刀会会場で第2回集荷
- 27日 組合事務所にて第2回撮影。担当者、持田理事・松本理事
- 8月1日 銀座刀剣倶楽部会場で第3回集荷
- 3日 組合事務所にて第3回撮影。担当者、生野理事・大平氏
- 3・4日 大石カメラにて甲冑撮影
- 4日 組合事務所にて第4回撮影。担当者、清水専務理事・嶋田理事
- 11日 組合事務所にて大刀剣市カタログ掲載割り振り会議を開催。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・嶋田理事・生野理事・松本理事・大平氏・土子氏
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加49名、出来高8,282,000円
- 23日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第25号編集委員会を開催(初校)。出席者、冥賀副理事長・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・瀬下理事・持田理事・飯田氏・大西氏・大平氏・土肥氏・土子氏

古銭 切手・刀剣 売買 評価鑑定  
**株城南堂古美術店**  
 代表  
**田中勝憲**  
 〒153-0051 東京都目黒区上目黒四-1-110  
 TEL 03-3710-1676  
 03-3710-1676  
 FAX 03-3710-1677

NEWS & TOPICS

### 高倉健さんの遺愛刀を寄贈、坂城町鉄の展示館へ

昨年十一月に亡くなった俳優高倉健さん(本名・小田剛一)の遺愛の刀剣類八振と日本刀専門書籍五十点などが長野県・坂城町鉄の展示館に寄贈されることになり、七月二十四日、当町在住の刀匠宮入小左衛門行平氏の自宅で、高倉さんの養女小田貴氏(東京都)より山形市坂城町長に手渡された。生前高倉さんと親交の深かった宮入氏を小田氏が本年六月に訪問し、遺品である刀剣について宮入氏に託したいと申し出たところ、自分が所有するよりは多くの人に見ていただき、永遠に高倉さんを偲ぶことができるようにして、展示館への寄贈を勧めた。

寄贈された刀剣には、堀川国広の脇指(重要刀剣)をはじめ豊後などの九州物が含まれており、故郷に寄せる思慕の念がコレクションの傾向にも表れ、また高倉さんの人柄の一面も示している。宮入氏は、「高倉さんは生前たとえば仕事の選択や人との関わりなど、縁」ということをとても大切にしていたように見受けられました。毎年欠かしたことのない善光寺参りの道中でもあり、幾度となく足を運んでいた鍛刀道場など、多少なりとも縁のあるこの地で、遺愛の品の公開を喜んでくださっていると思う」と語る。



NEWS & TOPICS

### 盗難の酒井家名刀が三十年ぶりに里帰り、返還はかなわず

昭和六十一年に旧庄内藩主・酒井家から盗まれた重要文化財「備前長船住元重」が、山形県鶴岡市の致道博物館で開催されている企画展「出羽庄内藩酒井家の遺宝」で展示され、約三十年ぶりの「里帰り」と話題になっている。

本刀は長船派の名工、初代元重が作った約七センチの刀。金象嵌銘の「見返」は、切られた人が振り返ってバタリと倒れたという伝承に由来する。酒井家十七代当主・忠明さん(故人)の蔵か

された元重は長らく所在不明だった。昨年所在がわかったが、約一億円という値がついたため、酒井家は買い戻しを断念。大阪のコレクターが酒井家の承諾を得て買い



取っていた。民法の定める無償返還請求期間は盗難から二年以内となっている。今回の「里帰り」は、買い取り当時から大阪のコレクターが申し出ていたもので、いかにも愛刀家らしい美拳とたたえられている。

### 後藤覚乗の名物茶室が 京都に蘇る

三百五十年前、後藤覚乗が加賀藩二代藩主・前田利常の命により、小堀遠州に依頼して作った小間茶室「擁翠亭」が、百四十年の時を経て京都市北区の大岡山荘内に移築された。

この茶室は「十三窓席」とも呼ばれ、にじり口を含めて十三万所の窓を持つ、日本一窓の多い茶室である。覚乗は装剣金工の仕事のほか、金沢藩の金銀財政面の御用達や加賀藩風聞報告役も務めており、広大な庭園の中の小さな茶室は、密談場所であったとも考えられる。



珍しい茶室として、江戸時代からその名が知られていた。当初建てられていた後藤屋敷・擁翠園から移築された後、数寄屋大工の平井家により解体され、部材と図面が保存された。大正・昭和とその存在は忘れられていたが、平成になり、数寄屋建築の第一人者である中村昌生氏に見いだされ、この度の移築の実現となった。

高倉健さんからの贈りもの (日本刀) 2015年9月1日(火)〜9月27日(日) 坂城町 鉄の展示館

### 日本刀を感じる・学ぶ 「刀剣検定」開催が決定!

書籍取次大手の日本出版販売株式会社が、来る十二月十三日(日)に第一回「刀剣検定」を岡山・東京・大阪の三都市で開催すると発表した。本検定は、一般社団法人全日本刀匠会事業部の監修、テレビせとうちの協力の下で、日販が企画・運営を行う。

さらに多くの刀や、より専門的な部位、製法について出題される。各級の練習問題は、刀剣検定公式サイトで公開され、いずれの級も発売中の公式テキスト『日本刀』(天下名刀の物語)、『三采書房』(八百四十円)の内容を中心に出題される。

刀剣検定では、一振一振の刀に込められた技術や物語についての知識が問われる。今回の検定は、初級者向けの業物級と、中上級者向けの大業物級の二階級が実施される。業物級では「名物三日月宗近」のような名刀と呼ばれる刀について一般的な知識や、刀剣の部位に関する問題、大業物級では

日本古来より、単なる武器としてではなく、神聖なもの、芸術品として宝物として扱われてきた日本刀。本検定を通して、日本固有の「刀剣」という文化に親しむとともに、そこに根付く精神性・哲学を学び取っていただければと、主催者は語っている。



刀剣・小道具・甲冑武具  
飯田高遠堂  
代表取締役 飯田慶久  
〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33  
TEL 03-3951-3312 FAX 03-3951-3615  
http://www.iidakoendo.com

(株)美術刀剣松本  
松本 富夫 義行  
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1  
TEL 04-7122-1122 FAX 04-7122-1950  
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑  
日本の伝統文化を彩る JAPAN SWORD CO., LTD.  
(株)日本刀剣 伊波賢一 Ken-ichi Inami  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1  
TEL 03-3434-4321 FAX 03-3434-4324

銀座 泰文堂  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11 松崎煎餅ビル4階  
(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏  
TEL 03-3563-2551 FAX 03-3563-2553  
フリーダイヤル 0120-402037  
http://www.taibundo.com

刀剣 高吉  
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!  
連絡先 090-8845-2222  
代表者 高島吉童  
東京都北区滝野川7-16-6  
TEL 03-5394-1118 FAX 03-5394-1116  
www.premi.co.jp

# 刀 剣 界

## 一関市博物館 日本刀の源流 「舞草鍛冶」に触れる

一関市博物館は、公立博物館の中で日本刀に最も力を入れている博物館の一つとして知られている。

通常、博物館や美術館は街の中心部に立地することが多いが、同博物館はJR一ノ関駅からタクシーで十九分ほどの、観光地として有名な厳美溪に近い所にある。平成九年にオープンした。

観光バスが何台も止められる広い敷地内に建つモダンな二階造りがそれである。日本刀の展示室は二階にある。

ところで何故、同館が日本刀にそれほど力を入れているのかだが、おそらく、日本刀の源流の一つとも言える舞草鍛冶の集落が一関市内にあったからに違いない。

舞草鍛冶と言っても、なかなかなじみの薄い刀工群である。それは在銘品がきわめて少なく、加えて



一関市博物館の日本刀展示室

て時代があまりにも古いからにはかならない。

舞草鍛冶は、観音山(別名鉄落山)の中腹に延喜式内舞草神社が鎮座することから、この周辺において活躍したものと考えられる。ここでは良質の鉄が大量に生産されたと言われ、加えて北上川の船津でもあり、下れば石巻港である。北上川を挟んで、対岸には奥州藤原氏の居城がある。平安後期、藤原氏の庇護の下に大いに栄えたことは間違いない。

平安期の舞草刀で在銘の作品は現在確認されていないが、古伝書の以下の記述からは舞草鍛冶の繁栄ぶりがうかがえる。

・朝廷に太刀三千振を献上した光長のこと。  
・源氏の宝刀「髭切」が舞草鍛冶の「文寿」の作であること。

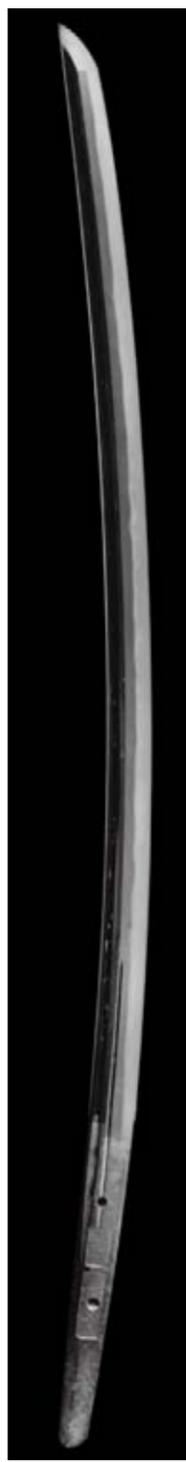
・天下の名工古備前正恒の父「安正」が舞草鍛冶であること。  
・鎌倉後期に書かれた「観智院本銘」の「神代より当代まで下手の事」のうち四十二名中「世安」「宝次」ら七名の舞草鍛冶の名が挙げられていること。

しかし、舞草鍛冶の多くは鎌倉前期の奥州藤原氏滅亡とともに衰退した。その流れをくむ宝寿の作品の中に、鎌倉中期・同後期・南北朝・応永年間に何代かわたって在銘品をわすか

に確認することができる。鎌倉中期の作と思われる宝寿在銘の重要文化財太刀(静嘉堂文库所蔵)がその一振である。鎌倉後期の作で正中年紀の重要美術品太刀(御嶽神社所蔵)もあり、年紀は入っていないが、他に数振確認できる(そのうちの二振は一関市博物館が所蔵している)。

同館所蔵の作品で最も有名なものが、額銘で「建武」宝寿」と入っている重要美術品である。元来三尺近い豪刀であったものだが、現在は二尺三寸に大磨上げしてある。身幅広く大切先の南北朝の姿に、地鉄は太刀目流れて本目交じり、総じて肌立ち、弱い地景が入っている。刃文は互の目乱れにわずかに飛焼交じり、砂流しかり、総体に沸づき、匂口は沈みこころである。帽子は湾れ込んで掃き掛けている。建武の年号は誠に貴重である。南北朝の宝寿の太刀でほかに年紀のあるものは、永和二年と永徳年紀の折り返し銘の刀(重要美術品)くらいである。応永年間に入ると、短刀および平造りの脇指などに七、八点確認することができる。その後は寛正に一点あるのみで、宝寿の作品はこの辺で終わっている。

舞草鍛冶の流れをくむ刀工に、現在の山形県寒河江市谷地周辺に移住し、南北朝以降、特に室町期全般にわたって活躍した月山鍛冶がいる。独特の綾杉肌で有名である。末裔が江戸時代後期に大坂に移住し、月山貞吉・貞一(帝室技芸員)・貞勝・貞二(重要無形文化財保持者)・貞利・貞伸と続き、現在も、奈良県三輪山の麓にて鍛刀所と月山記念館を営む名門鍛冶である。



建武銘の宝寿の刀

一関市博物館の日本刀展示室は、約一五〇平方メートルのゆたかりした空間である。日本刀をより見やすくするために照明を暗くし、落ち着いた雰囲気である。作品は両側の壁際に一振ずつ竿々と配置されている。スポットライトはそれぞれの地鉄・刃文・帽子までも鑑賞できるように配慮が行き届く。解説文もわかりやすく完璧だ。

館蔵品は、宝寿在銘が七点、鎌倉後期作と思われる舞草二字銘の太刀、それに古備前正恒の太刀がある。これは正恒の父が舞草鍛冶の安正であるためだ。一関藩が仙台伊達家の支藩であった関係から、山城大塚藤原国包の刀もある。宝寿以外で多いのが、一関十宗明の刀である。八振ほどある。宗明は一関藩の藩士であり、固山宗次の門人である。さすがに一関藩の武士の注文によるものが多く収蔵されている。宗明の刀は日露戦争の折、敵の機関銃を真つ二つに切断したことで有名な業物である。そのほか、日本刀の製作工程見本も展示され、初めての方にも理解しやすいよう工夫されている。

一関市博物館 021-1010101  
岩手県一関市厳美町字沖野々二五  
1 021-1010101  
http://www.museum.city.ichinoseki.iwate.jp/

## 9月の趣味 うしちく シヤル・ウィ・ダンス? 木村 隆志

皆さん、社交ダンスをご覧になったことがありますか? 九六年に映画「シヤル・ウィ・ダンス?」やバラエティ番組「ウリナリ芸能人社交ダンス部」で注目を集めたので、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。

日本の社交ダンスの歴史は、かの鹿鳴館が始まりで、当時はウィンナールツなどを踊っていたようです。一般庶民に浸透していったのは戦後になってからで、年配の方は踊れるかもしれませんが、ジルバやマンボが流行りました。

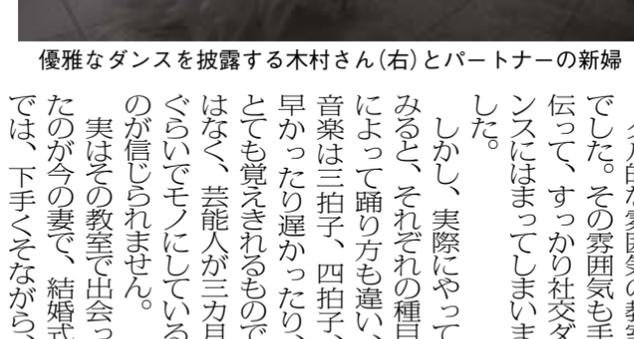
なお、同館には当地ゆかりの展示として、一関のあゆみ、骨寺村荘園、一関と和算、大槻玄沢と蘭学などのコーナーもある。

私は昨夏、久しぶりに平泉中尊寺を参拝した。途中、義経堂近くの展望台から東の方を見渡すと、眼下に北上川がゆうゆうと流れ、対岸五キロほどの所に観音山も確認できた。あの辺りが舞草鍛冶の集落があった場所かと思うと、感慨深いものがあった。

その後、毛越寺・達谷窟・厳美溪などを見学し、締めくくりに一関市博物館を訪れ、誠に充実した日を過ごした。

世界遺産である平泉中尊寺に行かれる機会があったら、ほんの少し足を伸ばし、一関市博物館をぜひ訪ねてほしい。日本刀に関心のある方なら、きつと満足されると思う。同館の活動には、刀剣人として心から敬意を表するものである。

現在、社交ダンスといっても種目が十四もあります。パーティダンスのアルミス・シルバ・マンボ・スクエアルンバの四種類、競技ダンスとしてはスタンダードとラテンに別れています。スタンダードはワルツ・タンゴ・スローフォックスロット・クイックステップ・ウィンナールツ、ラテンはルンバ・チャチャチャ・サンバ・パンドアレ・シャイブと十種目あります。



優雅なダンスを披露する木村さん(右)とパートナーの新婦

競技ダンスの人口は、国内で百六十万人とも言われており、人数は世界で一番多いのです。近ごろは、オリンピック競技にという話もあるようです。

四年ほど前ですが、運動不足の解消に何か運動でも思っていたとき、友人に誘われて行って見たのが銀座の社交ダンス教室でした。ダンス教室というと普通、年配の女性ばかりなのですが、そこは入会の年齢制限もあり、二十代から三十代の男女が大半の、練習が終わったら飲みに行くようなサークル的な雰囲気の教室でした。その雰囲気も手伝って、すっかり社交ダンスにはまってしまいました。

しかし、実際にやってみると、それぞれの種目によって踊り方も違い、音楽は三拍子、四拍子、早かったり遅かったり、とても覚えきれぬものではなく、芸能人が三カ月ぐらいでモノになっているのが信じられません。

### シヨウちゃんの 健脚商売③

長野市信更町 編

今思えば、あれが俺の二世二代だったのだ。今登っている坂と干曲川、国道を挟んだ反対側、十数年前に出た瀬仁温泉、峰ノ原間の小さなヒルクライムで表彰台に上

ったのだ。気を良くして自転車を軽くしたり、上り坂に出かけたりしたが、その後は表彰どころか完走がやっこの体たらく。九四年のツール・ド・フランス。



左から漫画家のかまたきみこさん、河内一平氏、筆者、阿部一紀氏、根津秀平氏

毎年二百位前後で完走していたイタリアのエロス・ポリー選手、ファンは愛と皮肉を込め、彼を「マインワール(最下位ジャージ。屈辱のため現在は廃止)が最も似合う男」と呼んだ。その彼が一世一代の賭けに出たのがモンヴァントウの登り、「死の山」と呼ばれるそのステージは命を落とす選手もいるツール屈指の難所だ。彼はそこを一位で逃げ切り、涙のゴールでファンを熱狂させたのだ。

俺は今ポリー選手を思いながら坂城町から登っているが、ゴールの長野市信更町水ノ田に待つのは、普通の人なら二世二代の場面を何度も表彰で輝くすべし奴、根津秀平刀匠だ。公益財団法人日本刀文化振興協会のコンクール新人賞から始まり、今年最高峰の経済産業大臣賞に輝いた。その成果ではないが、長野市の「やまざとビジネス支援補助金制度」に採択され、千曲川から標高三百メートルのこの丘の上に鍛刀場を建設計画中だ。土地の持ち主は炭焼屋さんで、根津刀匠は炭焼も手伝いながら作刀に励むと言う。その技術が裏付けとなっていることはもちろんだが、氏の夢に向かって突き進む精神力にはすこみを感じる。鍛刀場は写真のように現在盛り土をして重機で地形をしている段階で、完成が待たれる。下山は、先に車で小径自転車を持ち込んでいた研師の阿部一紀氏と時速五十キロ超の速度とのんびりサイクリングを楽しみながら坂城へ戻った。今日は往復四十五キロ。阿部氏とは、ツールを録画した



新栄会大会の交換会風景

### 新栄会大会報告

梅雨も明け、本格的な夏の暑さが感じられるようになってきた七月六日、大阪の箕面観光ホテル・大江戸温泉物語桂別荘において新栄会の大会が開催されました。大会は吉井唯夫代表の挨拶に始まり、入札・セリとも関西の魅力の荷物がたくさん出て大いに盛り上がりしました。新栄会の歴史は長く五十年近くになり、全国でも数少ない歴史の古い会です。阪急百貨店で店を構えていた中宮敬堂さんや、現代代表の先代の吉井哲夫さんが中心となって始めた共同会です。昔から関西の生が荷が出るので、東京はもちろん全国から業者が集まってくる市場なのです。このような伝統のある会が、これからは関西を引っ張っていく会になっていったらと思います。大会の後は宴会もセッティングされており、おいしい食事にかわくと大いに盛り上がりしました。その中で吉井代表には意外な一面も見せてくださり、皆さんを楽しませていました。新栄会は盛会の内に幕を下ろしました。(土肥富康)

当時の弁当箱のようなVHSを貸し借りした竹馬の友ならぬ銀輪の友。東京都庁の刀剣登録審査会場では審査員である氏とは普通に話す。そう、普通に話していた日であつたらうか。訂正を受けていた自分と一番離れた机から同じく研師で審査員のMさんがわざわざやって来て「綱取さん、T田夫妻と呑みましたよ、Z所さんと。T川さんも先に来ていて」「あそこの板さん、立ったまま眠って見せるでしょ、ギャハハ」などデカい声で話していた翌月、またも訂正で都庁を訪れると待合室の黒板に

### 刀剣商リレー訪問② 瀬下明さん・昌彦さん

#### 銀座店は二代目が任された

丸英美術刀剣店(栃木県小山市・代表瀬下明氏)が八月八日、銀座丸英を開設しました。創業から五十五年を経て、東京や関西の顧客から東京出店の要望もあり、銀座への出店を実現させました。顧客と信頼関係を築いて長い付き合いができる、信用第一をモットーにする店です。の昌彦さんは、公益財団法人日本美術刀剣保存協会に三年半勤めた後、平成十八年から丸英美術刀剣で経験を積んできたバイタリテイーあふれる三代目。「丸英が築いてきた信頼を守って、新しいお客さまとの出会いを大切にしていきたい。刀に興味を持つ人が気軽に入ることができるよう雰囲気の良い店にしたいです」と抱負を語ってくれました。今年三月、宇都宮線と東海道線が相互直通運転になり、地元駅から新橋駅まで



瀬下明さん(右)と昌彦さん

立地は銀座七丁目のビル一階。JR新橋駅や地下鉄東銀座駅から徒歩五〜七分の好ロケーション。競争率二十倍のテナント選考があつたそうです。店内には刀剣十数振に刀装具や兜・面頬など多数をセンス良く陳列、銀座のニーズに合わせた品揃えを試みていくとのこと。今回、銀座丸英を任される子息

「業者の皆さんへ、審査員の先生と親しげに話さないでください。一般の皆さまが誤解されます」とある。あちゃー、間違いない、これは俺が悪いに決まっています。前述のポリー元選手は、ツールの歴代難所覇者の一人としてステージの上に呼ばれるのを「僕はそんな立派な選手じゃないよ」と断り続けているという。根津刀匠も不言実行型。俺に必要なのはデカい声じゃなくこういった謙虚さだな。でも肝心の全刀商理事会ではデカい声が出ない。だめだこりゃ。(綱取謙一)

### 刀職紹介 第18回

〔研師〕本阿彌殺さん



本阿彌殺さんは昭和五十年、現在人間国宝である本阿彌光洲氏の三男として東京都港区に生まれる。専門学校卒業後、父に師事して研磨に従事、十五年の修業を経て富山市にて独立開業された。刀剣研磨・外装技術発表会にて竹屋賞・寒山賞・日本美術刀剣保存協会会長賞・優秀賞・努力賞・新作日本刀・研磨・外装・刀職技術展覧会にて金賞三回・銀賞一回・銅賞二回受賞。

〔研師〕森井鐵太郎さん



森井鐵太郎さんは昭和五十一年、鳥取県米子市の生まれ。藤代興里師について十二年間修業の後、平成十九年、現在地にて独立開業された。刀剣研磨・外装技術発表会にて薫山賞・優秀賞四回・努力賞五回、新作日本刀・研磨・外装・刀職技術展覧会にて日本刀文化振興協会会長賞・金賞三回・銀賞・銅賞受賞。平成二十・二十四・二十六年には熱田神宮にて技術奉納をされている。御刀をお預かりする際は、御刀を前にお客さまと向き合い、御刀の現状、必要な作業などを丁寧に説明する。また研磨においては、可能な限り減らさず、美しさを十分に発揮することを心がけているという。

刀剣・宝飾品・高級腕時計・ダイヤ

**紀伊国屋**

代表 **松浦孝子**

〒372-10812  
群馬県伊勢崎市連取町一八三六一  
TEL 〇二七〇-二六一七七七八  
FAX 〇二七〇-二六一八七八八

修理時代は師から言われた「それぞれ思いで大事に所持されている御刀をできるだけ減らさずに後世へ残し伝えてゆくと」「二振一振「美意・丁寧」を常に心がけて研磨させていただくこと」を肝に銘じ、御刀の持ち味を十分に引き出し、御刀とお客さまに喜んでいただけるような研磨を目指しているとのこと。

工作代金は刀身の状態により異なるので、相談してみてください。

■連絡先 050-1335 埼玉  
県狭山市柏原三二一六一八〇 ☎  
〇四二九五二六三五五



『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に1年間無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で継続購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)

鉄の各種「本目・柾目・綾杉肌」を実際の映像で、また、中西裕也刀匠の鍛刀風景と併せて、心金と皮金の構成で解説しました。一方、拵の美しさについても、鐔の金工技術や兵庫鎖太刀をはじめとする外装の総合芸術をアビームしました。

次に「るろうに剣心」の逆刃刀、エヴァンゲリオンを題材とした日本刀とのコラボレーション、セカンドインパクト、徳川美術館に集まる女性へのインタビューや、家康と妖刀村正などの紹介があり、豊臣秀吉の名刀との関わり、鑑定と本阿弥光徳、折紙、大



番組に登場した月山貞伸刀匠

## NEWS & TOPICS

### 堺刃物職人養成道場が開講

大阪府堺市では、市の伝統産業である堺打刃物の製造技術を受け継ぐ若い人材を育てるため「堺刃物職人養成道場」を十月から市産業振興センターで開講する。

堺刃物はプロの料理人らに愛用され、和食ブームとも相まって海外での「和包丁」人気も高まっているが、職人技の伝承が難しく、注文に供給が追いつかない状況だという。二人前になるには十年ともいわれ、小規模な事業所だけでは後継育成が難しいとされる。

そこで、市産業振興センターが堺刃物商工業協同組合連合会の協力で実施。職人を目指す若い人たちに、刃物製造の基礎を一年かけてプロや専門家から効率的に学ん

阪歴史博物館の内藤直子芸員による「序列と確固とした地位」の解説がありました。

また、土方歳三資料館を訪ねて幕末討幕史と神社奉納の歴史や、和泉守兼定による会津の砂鉄、廃刀令と刀職の廃絶、日英同盟記念として陸軍から兼定へ製作依頼があった逸話などが、日本美術刀剣保存協会長岡支部長や刀剣博物館・黒滝哲哉学芸員から紹介され、結びに月山日本刀鍛錬道場、月山貞利・貞伸刀匠の作刀風景と刀匠の思いが語られました。

居合術家・町井敷氏による試し斬りシーンも流れ、日本刀の芸術性、精神性、時代の地位、刀にまつわる物語、実用性、創造性など、多方面にわたって総合的にまとめられた番組でした。放映範囲の広い公共放送で流れたことで、新たな愛刀家と、一般にアラスの興味を引き立たせ、業界にも良い流れができるものと思います。

見逃した方は、NHKオンデマンドにてご覧ください。(伊波賢一)

でもらう。

条件は、十八歳以上三十五歳以下、ものづくりに意欲のある人、座学と実技を一年間継続受講できる人、研修後、市内の刃物事業所に勤務などができる人。

前半の座学と技術は夜間と土曜中心、後半の実技は平日に工房での研修が中心となり、就業の意思があれば月十数万円の奨励金が六カ月間、公費から支給される。

堺打刃物は昭和五十七年に経済産業大臣指定の伝統的工芸品になっており、他の国内有名ブランド刃物の製造なども担っている。問い合わせは堺市産業振興センター ☎〇七二二五五二二二三へ。

## 第400回銃砲史学会

日時：9月12日(土)13時～  
会場：早稲田大学各務記念材料技術研究所  
新宿区西早稲田2-8-26  
プログラム：  
・火縄銃の威力実験に参加して  
青木孝(神奈川県銃砲刀剣登録審査委員・前装銃射撃連盟理事)  
・中小坂鉄山の研究調査の現状報告  
原田喬(産業考古学会理事)

・当世具足について 棟方貞夫(日本甲冑武具研究保存会理事)  
・岩鼻・宇治火薬製造所の遺構について 鈴木淳(東京大学教授)  
参加費：講演会1,000円  
懇親会4,000円  
問い合わせ・申込先：  
☎/FAX 048-781-9324 峯田 haru1204@jupiter.ocn.ne.jp

## イベント・レポート

### 土方歳三資料館「日本刀鑑賞講座 十一代兼定をもっと知ろう！」

去る七月十七、十八日の二日にわたり、東京・日野市の土方歳三資料館において「日本刀鑑賞講座 十一代兼定をもっと知ろう！」が開催されました。



熱心に講義を聴く受講生

同資料館では、今年は土方歳三ら旧幕府軍の戦没者慰霊碑が函館に設置されて百四十年の節目に当たり、昨今の刀剣ブームも相まって、来館者が増加していました。

これを背景に、刀剣文化への理解を深めてほしいとの思いから、資料館に所蔵されている土方歳三佩刀・十一代兼定の手入れを三代にわたり行っている刃田刀剣店の協力の下、本講座が企画されました。

熱心な受講生が、講師の話を聞きながら、刀の歴史や手入れの重要性について学びました。

講師は、和やかな雰囲気の中で始まりました。まず日本刀のポイントを、マナーなどのレクチャーがあり、その後全員が実際に刀を手に取って鑑賞しました。

### 奥出雲たたらと刀剣館 研修が日本刀の魅力を知る

日本刀の魅力を知ってもらおうと、研修が語る日本刀講座がこのほど、島根県奥出雲町横田の奥出雲たたらと刀剣館で開催された。講師は、安来市広瀬町出身で東京在住の高岩節夫さん。スライドを使用して日本刀の地鉄や刃文の種類を紹介、時代や流派、刀工個人の作品ごとに個性が表れ、鍛え方や焼き入れの仕方さまざまな作風が表現されると説いた。

### 公益財団法人日本刀文化振興協会「刀職者実技研修会」

#### 知りたい内容の確かな指導に感謝

公益財団法人日本刀文化振興協会主催の平成二十七年「刀職者実技研修会」が、七月二十四日から二十六日までの三日間、長野県坂城町中心市街地コミュニティセンター多目的ホールにて開催されました。開講式では、鉄の展示館館長でもある山村弘町長から「三日間という限られた時間の中で、ぜひ技術を習得してほしい」との激励のお言葉を頂戴しました。

今年で第八回になるこの研修会には、三十一名の研修生の参加がありました。ほかに第六回新作日本刀・研磨・外装・刀職技術展覧会の関連行事にて募集した「小柄小刀を作ろう！」の参加者十四名も同じ場所で作業し、会場はにぎやかな雰囲気になりました。

今年の参加者で特筆されることは、研磨部門以外の作刀・鞆・白銀・柄巻のすべての部門に女性の参加が見られたことです。さらに小刀教室も半分の七名が女性と、最近の女性の間で刀ブームを反



講師の先生方と研修生の集合写真

「刀職者技術研修会」は、自分でテーマさえ持っていれば、密度の濃い三日間を過ごすことができます。また、研修会には、すべての部門の刀職者が集うため、情報交換や交流の場としても大変有意義です。

閉講式では、講師の先生方から「何をやるにも基本が重要、基本をおろそかにしないように」「この場で学んだことを、帰ってから実際に生かすことが大事」などのご指導がありました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を作ってくれた関係者の皆さまには、あらためて御礼申し上げます。来年も素晴らしい研修会が開催されることを願っております。(森光廣(刀匠、本名充吾))

# 催事情報

## 江戸東京博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1 ☎03-3626-9974  
https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/

### 特別展「徳川の城 ～天守と御殿～」

関ヶ原の合戦に勝利し、征夷大將軍となった徳川家康(1542～1616)。全国の統治を強化するため、家康らは日本各地の重要な地点に城を築きました。江戸城、名古屋城、駿府城、二条城一。それらの城の数々には、幕府の権威の象徴であった天守や、江戸城の松の廊下や大奥に代表される荘厳な御殿が存在していました。

本展は、屏風や絵地図、工芸品など貴重な資料を展示するほか、現代の最新技術によって生み出された映像や模型などを駆使し、家康たちが築き上げた「徳川の城」の魅力に迫る展覧会です。

構成：

- 第一章 天下普請
- 第二章 塔のような天守
- 第三章 荘厳なる御殿

会期：8月4日(火)～9月27日(日)



## 大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728  
http://www.mus-his.city.osaka.jp/

### 特別展「唐画もん — 武禪に閨苑、若冲も」

江戸時代中期の大坂や京都では、個性的な作風で人気を得た絵師が活躍しました。近年人気の高い伊藤若冲はよく知られていますが、同時代の大坂で活動した絵師はあまり知られていないとは言えません。中でも、墨江武禪(1734～1806)や林閨苑(生没年不詳、1770～80年ごろに活動)は、当時の流行であった中国絵画を学んだ「唐画師」として独自の表現を追求し、大坂でも有数の絵師として人気がありました。

墨江武禪は、浮世絵を描きながら中国絵画にも関心を寄せ、光を意識した作品や西洋絵画の写しなど、一風変わった作品を残しました。林閨苑は、華麗な花鳥画とともに、荒々しく奇怪な表現の水墨画も描いていますが、その生涯はよくわかっていない謎の絵師です。

本展覧会では、中国の絵画に憧れ、描いた人々を、親しみを込めて「唐画もん」と名付けました。中でも優れた手腕をもって活躍した武禪と閨苑の2人に焦点を当て、彼らの画業とともに、同時代の大坂や京都で活躍した個性派の絵師たちも紹介します。

会期：10月31日(土)～12月13日(日)



白孔雀図 林閨苑筆 美人図 墨江武禪筆  
大阪歴史博物館蔵 個人蔵

## 千葉県立中央博物館 大多喜城分館

〒298-0216 千葉県夷隅郡大多喜町大多喜481 ☎0470-82-3007  
http://www2.chiba-muse.or.jp/?page\_id=59

### 甲冑とその時代 ～甲冑の様式を中心に～

甲冑は、古墳時代の短甲や挂甲、平安時代中期に形作られた大鎧、徒歩戦に適した胴丸や腹巻、戦国期に普及した当世具足など、その様式は時代とともに変化してきました。

本展では、当館所蔵資料に加え、他施設の関連資料も展示し、大鎧以降の甲冑の変遷について時代背景とともに紹介し、さらに、甲冑製作技術を受け継ぐ現代の甲冑師の鎧づくりについて取り上げます。

なお、展示以外にも講演会やセミナーなど関連事業を用意して皆さまのご来館・ご参加をお待ちしております。

展示構成：

- ①大鎧・腹巻・胴丸の時代
- ②当世具足の時代
- ③泰平の世の甲冑
- ④現代の鎧作り

会期：10月23日(金)～12月6日(日)



兎耳形変り兜

キャラクターカードなどのプレゼントに申し込みが殺到



戦国時代は「関東から始まった」という。その端緒と言えものが享徳三年(一四五四)の「享徳の乱」で、これは室町幕府八代将軍足利義政のときに起きた関東地方における内乱。五代鎌倉公方足利成氏が関東管領上杉憲忠を暗殺したことに端を発し、幕府方、山内・扇谷両上杉方、鎌倉公方(古河公方)方が争い、関東地方にお

## 東国系甲冑の集大成は圧巻

埼玉県立歴史民俗の博物館「戦国図鑑-Cool Basara Style-」

ける戦国時代の原因となった。

これまでは、応仁元年(一四六七)に始まった、いわゆる「応仁の乱」とする考えがあった。ところが、近年の歴史学会では従来のさまざまな学説が見直されているところである。

そんなわけで、今回の展示では、戦国時代の武蔵国にゆかりのある戦国武将の甲冑・刀剣・古文書などを鑑賞することができる。

古河公方足利政氏所用の縹糸威最上胴丸具足をはじめとして、北条氏・上杉謙信・武田信玄・伊達政宗・徳川家康らにゆかりの甲冑・刀剣が並ぶ。

続いて、関東五枚胴具足と鉄地黒漆塗五枚胴。関東五枚胴の方は、鉢形城主北条氏邦の家臣秩父孫四郎重国所用と伝えられる美戦回きの具足。天正十八年(一五九〇)、豊臣

## 徳川ミュージアム

### 初公開の燭台切光忠と兎手柏包永を見る

関東大震災で被災した水戸徳川家の名刀「燭台切光忠」と「兎手柏包永」が茨城県水戸市の「徳川ミュージアム」において公開展示されました。

公開期間は七月十一日～九月二日でしたが、筆者が訪れた日は夏休み初めの連休という日もあり、十時の開館に合わせて到着したところ、受付には既に行列がで

秀吉の小田原攻めの際、北条方の武士が着用したとされるのが関東五枚胴だそう。現存例は少なく、関東ではこの二領のみとのこと。「この展示は、戦国時代に見られる東国系甲冑の集大成と言え展示」と埼玉県立歴史民俗の博物館・杉山正司副館長のおっしゃる通り、この後も甲冑・胴丸・丸胴・五枚胴・二枚胴が二十点近く、鞍が四点、面頬が十点、兜に

至っては八十点近く並んでいる。その中で、初めて見た腹巻のことを書いておこう。「本小札鮫皮包浅葱糸懸威腹巻」。

解説には「前後の立拳二段、長側四段、大ぶりの草摺は七間五段下がり、古式板所の伝統的本小札(要所は鉄・皮一枚交ぜ)の腹巻。ただし小札類を残し、ほかすべてを磨いた鮫皮を覆い尽くす。現存唯一の例である。威糸は太く

丈夫な三色を用い、浅葱糸で粗く素懸で威し下げる上杉様で、鮫皮包みをより強調させている」とあり、この腹巻の前でしばらく時を忘れたものである。



徳川ミュージアム

さており、十一時ごろには百人を超す方々が並んでいました。燭台切光忠は今、女性に人気のあるオンラインゲーム「刀剣乱舞ONLINE」に擬人化したキャラクター(刀剣男士)として登場し、高い人気を得ています。実際に、訪れている方は若い女性が多かったです。

燭台切光忠の来歴は諸説ありますが、水戸徳川家の刀剣台帳「武庫刀鑑」によると、仙台藩主の伊達政宗の近臣の一人が罪を犯し燭台の陰に隠れていたところ、政宗がこれを燭台もとも斬り倒しました。そこからこの刀を「燭台切」と呼ぶようになりました。

徳川光圀は幼年のころ、政宗の邸宅にて刀を身近に置きながら政宗に「燭台切」の由来を語り聞かされました。光圀はこの刀を欲し、お気に入りの品だからと一度

は断られましたが、最後は刀を頂いて帰ったと伝えられています。大正十二年の関東大震災による火災で、燭台切光忠は他の多くの名刀とともに焼失してしまいました。全体が焼けて黒くなっているものの、往時の刀姿を残し刀身の表面は綺麗でした。孝には火事の高熱で溶けた金釧が輝いていました。燭台切光忠の刃文を今に伝えるものは「武庫刀鑑」の押形のみですが、鮮明な乱れ映りが立ち、丁子乱れに蛙子丁子を交え、帽子は、浅く湾れて小丸に返った刀だったようです。兎手柏包永は細川藤孝が所持し、佩裏に「兵部大輔藤孝磨上之異名号兎手柏天正二年三月十三日」と刻まれています。その後、徳川家康に譲られ、家康は関ヶ原合戦に際して兎手柏を佩刀したと伝えられています。水戸徳川家では第一の宝刀として伝えられました。兎手柏包永は佩表が乱刃、裏が直刃になっているので、「万葉集」の